

第98回原子力規格委員会 議事録

1. 日 時 2026年6月23日(火) 14時20分～16時00分

2. 場 所 一般社団法人 日本電気協会 4階 A, B会議室 (Web会議併用)

3. 出席者 (敬称略, 順不同)

出席委員：阿部委員長(東京大学), 吉田副委員長(日本原子力発電), 斉藤幹事(東京大学), 大坂(日立GEヘルパニュークリアエナジー), 定廣(富士電機), 原口(三菱重工業), 室伏(東芝), 伊藤^(注)(中部電力), 大平(日本原子力発電), 岡本(関西電力), 藪内(鹿島建設), 木村(日本製鋼所) *1, 伊藤^(注)(日本原子力研究開発機構), 田中(日本原子力保険プール), 村上(東京大学), 爾見(発電設備技術検査協会), 波木井(原子力損害賠償・廃炉等支援機構), 原山(日本電気協会), 高田(東京大学, 安全設計分科会長), 望月(大阪大学, 構造分科会長), 山本(名古屋大学, 原子燃料分科会長), 山田(慶應義塾大学, 品質保証分科会長)*2, 上養(日本アイトープ協会, 放射線管理分科会長), 出町(東京大学, 運転・保守分科会長)*3 (計 24名)

代理出席：楊井(東京電力HD, 山下委員代理), 東海林(電力中央研究所, 三浦委員代理), 河本(北海道電力, 山田品質保証分科会長代理)*4 (計 3名)

欠席委員：小山(日本製鋼所), 藤田(東京電機大学, 耐震設計分科会長) (計 2名)

常時参加者：佐々木, 塚部(原子力規制庁), 鈴木(原子力安全推進協会), 折田, 岡田(電気事業連合会) (計 5名)

説明者：なし (計 0名)

傍聴者：なし (計 0名)

事務局：橘, 高柳, 中山, 川口, 景浦, 美濃, 浅見, 上野, 梅津, 山崎(日本電気協会) (計10名)

*1：議題(2)より委員として出席 *2：15:15 頃に途中退席

*3：14:50～15:20 頃に一時退席 *4：15:15 頃に途中参加

4. 配付資料：別紙参照。

5. 議 事

事務局から、本委員会にて私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないこと及び録音することを確認の後、議事が進められた。

(1) 会議開催定足数確認他

事務局より、出席者は現時点で委員総数27名に対して25名の出席であり、定足数確認時点で原子力規格委員会規約第11条(会議)第1項に基づく出席委員は委員総数の3分の2以上の出席という会議開催定足数の条件を満たしているとの報告があり、その後、常時参加者5名の紹介があった。

続いてWeb会議に対する注意事項の後、第99回原子力規格委員会は、2026年9月16日(水)午後を予定しており、各委員の予定確保をお願いするとの説明があった。その後配布資料の確認を実施した。

(2) 原子力規格委員会委員、分科会委員の承認

1) 原子力規格委員会委員の変更及び承認（審議）

事務局より、資料 No.98-1-1 に基づき、今回退任される小山委員（日本製鋼所）、大平委員（日本原子力発電）の紹介があった。

引き続き、阿部委員長より、規約第6条（委員の選任・退任・解任及び任期）第2項に基づき、新委員の推薦について確認の結果、日立GEベルバニュークリアエナジー 大坂委員より日本製鋼所の木村氏を推薦するとの発言があり、委員として承認するかについて、規約第14条（決議）第4項に基づき、挙手による決議の結果、出席委員全員の賛成で承認された。

2) 分科会委員の変更及び承認（審議）

事務局より、資料 No.98-1-2 に基づき、下記分科会委員の変更の紹介があり、分科会規約第6条（委員の選任・退任・解任及び任期）第1項に基づき、新委員候補を分科会委員として承認するかについて、原子力規格委員会規約第14条（決議）第4項に基づき、挙手による決議の結果、出席委員全員の賛成で承認された。また、分科会委員1名の業種区分変更についても同決議により承認された。

【安全設計分科会】

なし

【構造分科会】

- | | |
|--------------------------------|-----------------|
| ・退任 中根 委員（日立 GE ベルバニュークリアエナジー） | ・新委員候補 朝倉 氏（同左） |
| ・退任 小枝 委員（日本製鋼所） | ・新委員候補 水戸 氏（同左） |

【原子燃料分科会】

- | | |
|--------------------|-----------------|
| ・退任 鶴田 委員（東京電力 HD） | ・新委員候補 山田 氏（同左） |
| ・退任 吉 委員（電源開発） | ・新委員候補 香川 氏（同左） |

【品質保証分科会】

- | | |
|------------------------|-----------------|
| ・退任 小松 委員（電源開発） | ・新委員候補 山崎 氏（同左） |
| ・退任 光井 委員（清水建設） | ・新委員候補 森 氏（同左） |
| ・退任 福田 委員（日本原子力研究開発機構） | ・新委員候補 高橋 氏（同左） |

【耐震設計分科会】

- | | |
|---|-----------------|
| ・退任 大熊 委員（九州電力） | ・新委員候補 本村 氏（同左） |
| ・業種区分変更 中田 委員（防災科学技術研究所）五. 学術研究機関 →（東京大学）八. 学識経験者 | |

【放射線管理分科会】

- | | |
|---------------|-----------------|
| ・退任 川島 委員（東芝） | ・新委員候補 藤原 氏（同左） |
|---------------|-----------------|

【運転・保守分科会】

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| ・退任 竹本 委員（日本原子力発電） | ・新委員候補 宮園 氏（同左） |
| ・退任 山崎 委員（電源開発） | ・新委員候補 野中 氏（同左） |
| ・退任 堀 委員（日本原子力研究開発機構） | ・新委員候補 齋藤 氏（同左） |

(3) その他（その1）

1) JEAG4803-1999 廃止に係る技術資料制定について（報告）

運転・保守分科会 事務局より、資料 No.98-2-1 に基づき、JEAG4803-1999 廃止に係る技術資料制定について説明があった。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 資料の下部に技術資料であることを明記してあるが、括弧の位置等がずれているので適切に修正してもらいたい。P7 の 9 行目は単語の途中で改行しているの修正してもらいたい。
- ・ 技術資料の名称が適切ではない。「廃止に係る技術資料」とすると廃止という所作に対する技術資料になってしまうので資料名としてよくない。また、P3 の全体目次では 5 の名称が技術資料自体のタイトルと重複しており、これでは 1～4 の項目は一体何なのかということになるので適切に修正してもらいたい。
- 資料名については分科会でも議論があり、廃止という言葉を入れないと人によっては JEAG4803-1999 という規格がまだあって、その補足の技術資料だと誤解される懸念が強く、あえて廃止という単語を入れた名称にしている。
- ・ 日本語として「廃止に係る技術資料」というのは変である。廃止という所作に関してまとめたのがこの技術資料ということになってしまう。指針に関する技術資料ではなくなってしまう。例えば「旧指針「軽水型原子力発電所の運転保守指針（JEAG4803-1999）」に係る技術資料」のようにする方がよい。また、目次内の各項目は資料名称に対する部分集合になるので、資料名称と 5 の項目名が同じなのは適切ではない。
- 内容に関わる箇所ではないので分科会に持ち帰り再検討し、HP 掲載までに修正する。

2) JEAC4111 実務コース講習会の開催（報告）

品質保証分科会 事務局より、資料 No.98-2-2 に基づき、JEAC4111 実務コース講習会の開催について説明があった。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 特になし

(4) 基本方針策定タスク案件の審議・報告

1) JEAC4601 の技術評価対応状況（報告）

事務局より、資料 No.98-3-1 に基づき、JEAC4601 の技術評価対応状況について報告があった。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 口頭による説明となっているが、見える形で説明することはできないか。
- 経緯を資料に示し、細かい内容については資料に記載すると結構なボリュームになるので口頭説明している。
- ・ 口頭説明だけでは議論できないところがあるので、簡単に構わないのだが、JEAC4601 であれば章ごとに、こういう議論があったということをまとめてもらおうと今後役に立つと思う。本文中で他の規格を参照するような規定になっているため、その箇所の技術評価が困難と判断されたという話もあった。技術評価を受けてエンドースを目指す規格についても展開できる話なので、そういった情報を抽出してまとめていくことは我々として必要だと思う。
- 会合の内容を中心にまとめて、資料の中に記載する。
- ・ 会合を踏まえて、その内容を我々がどのように水平展開していくのかということをもとめておくと、今後の JEAC4201,4206,4216 の技術評価にも役に立つ。

2) 第 10 回原子力規格委員会シンポジウムについて（報告）

事務局より、資料 No.98-3-2 シリーズに基づき、第 10 回原子力規格委員会シンポジウムについて報告があった。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 特になし

(5) 原子力関連学協会規格類協議会案件の報告

1) 2025 年規格類協議会ステートメント改訂案（報告）

事務局より、資料 No.98-4-1 シリーズに基づき、2025 年規格類協議会ステートメント改訂案について報告があった。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 特になし

2) 技術評価の戦略ロードマップについて（報告）

事務局より、技術評価の戦略ロードマップについて報告があった。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ JEAC4203 の改定状況はどうなっているか。

→ 現在、発刊準備中である。主な校正作業は終了しているので今夏には発刊できる見込みである。

(6) その他（その 2）

1) 活動の基本方針の改定（審議）

事務局より、資料 No.98-5-1 シリーズに基づき、活動の基本方針改定の説明があった。

審議の結果、活動の基本方針の改定について、改定されたステートメント冒頭の再稼働に至った BWR 基数の指摘については、今後の規格類協議会での修正後に反映することを条件に決議の結果、承認された。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 資料 No.98-5-1-1 の P20 に⑤エンドースに関する課題があり、この内容についてどういうことを意図されているのか教えてもらいたい。4 点記載されており、2 点目に「協議会において、規制との意見交換を通じてエンドース対象学協会規格の選定方法を検討する。」とあるがどういう意味か。技術評価を希望する優先順位は事業者から聞くのだが、例えば今引用されていない規格で、これは引用していった方がよいといったことを検討するのか。エンドース対象学協会規格の選定方法について、こういうことも踏まえて検討するといいいのではないかということを検討しようとしているのか、あるいは学協会規格の中でこの規格はこの条文に引用してしっかり位置付けた方がよいといった選定をするのか。どういう趣旨かという質問である。

→ ご存知のとおり、事業者がエンドースを希望する多くの規格があり、その順番をどうするのかということと規格類協議会場で議論していることを指している。

- ・ そうすると技術評価を希望する規格を選ぶときに、このようにやったらどうかとか、あるいはいろんな情報提供するとか、そのようなことを検討するという意味か。
- そういうことになる。現時点では事業者から技術評価を希望する学協会規格について情報提供してもらっているが、他のやり方として学協会から情報を提供することで、より効率的にこういう話が進むのであれば、そのことも考えましょうといった意味合いになる。
- ・ 4 点目に「性能規定にかかる規制との概念共有、エンドース以外での活用の検討を進める。」とあり、IRIDM 標準というのは規制庁、規制委員会の中でも様々なところで参照されている文書だと思っていて、そういう意味ではエンドース以外での活用の検討というのは新しいアプローチのように聞こえて、すごく良さそうな感じがするのだが、具体的にはどういう活用があるのか。
- 例えば我々が作った規格の考え方を規制が取り込んでガイドラインを使うようなことがあれば、一つの活用になると思う。他の例では、日本電気協会の規格では取替炉心の安全性に関するものがあり、これは実際に検査制度の中で活用されている訳で、エンドースを通さない形での使い方が実際にある。
- ・ エンドースするような種類ではない規格の中でも IRIDM が引用されて、例えばベースとなる考え方として位置づけられて活用されてゆくという、直接というよりは取替炉心のベースとなる考え方が規定されていくような感じか。
- 話が二つあり、一つは個別の規格の話になり、先程取替炉心の例を出したが、検査制度の中で事業者が例えば保安規定の中に取り込んで使っていることがあり、これは実際に検査制度で使えますということになる。もう一つの概念共有の話は、これはもう少し高いレベルの話で IRIDM 標準の考え方を取り込んで規制側で何か使うことがあれば活用されたことになるという意味になる。実際問題として IRIDM 標準をエンドースすることは想定できない訳で、考え方の活用というのは今説明した形になるのかと思っている。
- ・ 規制との概念共有というところが、学協会から何か働きかけがあって、概念を共有する活動があるのかと思ったのだが、ダイレクトにそういうことではないということか。
- 例えば標準委員会や原子力規格委員会の中で、こういう標準があって、こういう考え方をしているという説明があり、規制はどう考えるかについてディスカッションするようなイメージになるか。それとも学協会の方から規制側に持ち掛けるような話なのか。
- ・ そんなにストレートには考えていないが、例えばシンポジウムを開いてパネルディスカッションをするなどを継続すると概念の共有ができていくと思う。
- そういう意味では、そういう取り組みはやっていると思っていて、原子力規格委員会では 1.5 年に 1 回シンポジウムを開催していて、こういう話が議論されていると思っている。
- ・ 確かに定期的にシンポジウムを開催しているが、毎回テーマも異なり、該当する議論の時間は長くないので、様々な業界の人が様々な発表をして討論するということをもう少し踏み込んでやるのかと思ったので質問した。
- 学協会と規制側で概念を検討する勉強会を開きたいとの意向になるか。
- ・ そうではないが、どういうアプローチを考えているか確認したかった。
- もう少し踏み込んだ機会があれば、それはそれで良いと思う。
- ・ むしろ規格類協議会の場を使って今あった話を深めていきたいと思いますという意味合いで受け止めていたので、規格類協議会の中で積極的に発言していただくことをお願いする。
- ・ 2 点目については、確かにエンドースを希望する規格が ATENA を経由して規制庁に伝達され、これを規制庁が受け止めてどのように進めていくかを決める形になっているのは承知しているが、学協会も参

加している規格類協議会の中でそのための意見交換をしていくというのが該当している。そういう学協会の思いが反映される形で2点目に記載されていると受け止めてもらいたい。

- ・ IRIDM 標準を策定している分科会では、規制庁の職員もインタラクトする形で標準の策定をすることができている。先程こういうことができると良いと言っていたことが、既に実態として行われているということを簡単に紹介させていただく。エンドース規格ではないので規制庁の方は常時参加者ではなくオブザーバとして、分科会において規格類が議題に上がっている際に参加してもらっている。特定のガイドの方針や標準自体を変えるようなタイミングで分科会の中でしっかりと議論し、標準の考え方はこういうことであると伝達し、規制対応として使う時にどういふところが使いにくいといったことも確認した上で改定のプロセスに入っている。ある意味エンドースの対象にしていけないということによって、策定段階での考え方のすり合わせのようなことを、専門家として規制庁の担当者に入ってもらいやらせてもらっている。
- ・ 資料 No.98-5-1-1 の P16 の 1 段落目に沸騰水型について「2 基」と記載があるが、現時点（本文書が発行された 6 月時点）では「3 基」になっている。
- 規格類協議会で採決している内容なので簡単に変えることはできない。この意見を受けたということで次回の規格類協議会で議論してからになる。
- ・ この活動の基本方針の改定については本日決議を取りたいということがあるので、次のとおり提案する。
「2 基」と書かれているものが、実際には「3 基」とあるという指摘を受けて、この箇所については最終的に規格類協議会で改定された後に正しい数字に変更修正するという条件の下で決議する。活動の基本方針改定の決議そのものに対する本質的なものではないということもあるが、最新情報に基づいて修正することも必要なので、このような形で決議する。

- 特に異論がなかったので、活動の基本方針改定案を承認するかについて、原子力規格委員会規約第 14 条（決議）第 4 項に基づき、挙手により決議の結果、出席委員全員の賛成により承認された。

2) 前回議事録確認

阿部委員長より、資料 No.98-5-2 に基づき、前回議事録の紹介があり、正式議事録とすることについて特にコメントはなく承認された。

3) 原子力規格委員会退任委員の挨拶

今回原子力規格委員会委員を退任する、日本原子力発電 大平委員より退任の挨拶があった。

以 上

第 98 回原子力規格委員会配付資料

98-1-1	原子力規格委員会 委員名簿
98-1-2	原子力規格委員会 分科会委員名簿 (案)
98-2-1	「軽水型原子力発電所の運転保守指針 (JEAG4803-1999)」廃止に係る技術資料 (2026)
98-2-2	「JEAC 4111-2021 原子力安全のためのマネジメントシステム規程」 2026 年度 実務コース講習会(オンデマンド配信)の開催について
98-3-1	JEAC4601 NRA 技術評価実施状況について
98-3-2-1	第 10 回 日本電気協会 原子力規格委員会シンポジウム プログラム(案)
98-3-2-2	第 10 回日本電気協会原子力規格委員会シンポジウム準備工程案
98-4-1-1	ステートメント改定 コメントリスト
98-4-1-2	原子力安全の向上とイノベーション促進に向けた学協会活動の取り組み (履歴あり)
98-4-1-3	原子力安全の向上とイノベーション促進に向けた学協会活動の取り組み (履歴なし)
98-4-1-4	原子力安全の向上に向けた学協会活動の強化
98-4-2-1	技術評価を希望する学協会規格について
98-4-2-2	技術評価ロードマップ (2026 年度版) 【案】
98-5-1-1	日本電気協会 原子力規格委員会 活動の基本方針 改定案
98-5-1-2	日本電気協会 原子力規格委員会 活動の基本方針 新旧比較表
98-5-2	第 97 回原子力規格委員会議事録(案)
参考資料-1	日本電気協会 原子力規格委員会 規約
参考資料-2	日本電気協会 原子力規格委員会 活動の基本方針
参考資料-3	日本電気協会 原子力規格委員会 規程・指針策定状況
参考資料-4	日本電気協会 原子力規格委員会 委員参加状況一覧

以上